

## 海が泣く

森野 水琴

折からの突風に飛ばされて、彼の眼鏡が高山植物の上に落ちてきた。

ここは北海道の礼文島。稚内でマラソンを走り、翌日は利尻島でサイクリングをして一泊。礼文島に渡りハイキングをして一泊し稚内に帰るはずが、フェリー欠航のため延泊することにした。

ホテルの人の案内で島の北部を観光し、展望台に行ったが強風のため立てずに、しゃがみながら荒波を見ていた。あまりの迫力にデジカメで動画を撮っていた矢先に突風に見舞われた。

あわてて眼鏡を探すが見つけれない。連れの人たちも探してくれたが見つからなかった。

遠近両用の眼鏡なのだが、老眼が進み、そろそろ買い換えようと思っていたので、ようやく踏ん切りがついた。

一日遅れで彼は帰った。

落ちてきた眼鏡は、見つけられることなく潮風にさらされる。  
憐れむように海が泣く。

稚内のマラソンのスタート地点は宗谷岬だった。サハリン、樺太が見える。近い。あまりにも近い。

あんな近くから船団に攻められたら、ひとたまりもない。  
おそろしや おそろしや 恐怖に海が震え泣く。

宗谷岬に風が吹く。風とともに海が泣く。

サハリン、樺太を見て海が泣く。

海が泣く 海が泣く

天に届けと 海が泣く

翌年の一月四日。

海が泣いて祈った甲斐があり、天上から降りてきたトルストイの分身は宗谷岬からサハリン、樺太を眺めている。

かたわらには、紫式部の分身がいる。

感謝の潮騒が二人を包む。

トルストイの分身は、泣きながらサハリン、樺太に向かい平和を語りかける。

サハリン、樺太からは別の分身が返答する。

天上からは、次々とトルストイの分身たちが、生まれ故郷にも、国境線上にも降りてきている。

紫式部の分身は、南樺太で自決した電話交換手たちに思いを寄せて泣いている。

現状を何とか好転したい。

海に雪が降る。

トルストイの分身も紫式部の分身も凜としている。

二人の長い挑戦が始まる。